

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和4年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	卒業後を見据えた社会体験活動の実施
現 状	<p>本校には、幼稚部や小学部から在籍し在籍年数の多い視覚障害を有する生徒や、小学校等から不登校のため学校や社会生活の経験の少ない病弱生徒が在籍している。いずれも本校では特別な支援を受けて学校生活を送っている。特別な支援によりできることが増えて自己肯定感が高まるという長所もあるが、配慮され守られて過ごすことが多いため、進学や就職により社会に出た際に、在籍中とのギャップで学業や仕事が続けられなくなったり、再び引きこもったりする生徒が少なくない。</p> <p>そこで、卒業後の社会生活への橋渡しとなるような活動を考え、事前学習や準備を行った上で、校内や校外での社会体験となる活動に取り組み、人との接し方、支援依頼の方法等について実践できる力を身に付けられるようにしていきたい。</p>
達成目標	社会体験活動 年5回以上実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会活動実践に向けて必要な知識の習得や実践のための練習や準備を、キャリアや自立活動、総合的な学習／探究の時間、作業学習、生活単元学習等の授業で行う。</li><li>・校内の就業体験や学校近隣の公共施設等での校外学習を計画し、各自の役割や目標の設定ができるよう支援する。考えられる場面等の練習の設定もする。</li><li>・学習や準備、練習をもとに、自分の役割を行う、人と接する経験をする、支援依頼など臨機応変に行動するなどの実践ができるよう支援する。</li><li>・実践後に、反省点と成長点を挙げて、次回への取組に生かせるようにする。</li><li>・前回の反省や成長をもとに、次の取組に向けて準備や目標を設定できるように支援する。</li></ul>

令和4年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	進路支援
重点課題	高等部卒業学年在籍生徒に対する進路支援
現 状	<p>本年度の高等部においては、普通科(視覚障害・病弱)及び専攻科(保健医療科・理療科)に在籍する卒業学年の在籍生徒が8名いる。障害の程度や幅広い年齢層、居住する地域性など、それぞれの実態に応じた進路支援がこれまで以上に必要となっている。</p> <p>また、昨年度の卒業生において、卒業年度内に就職先が決まらなかった例もあったことから、年度当初から、卒業学年生とその保護者の卒業後の進路希望を的確に把握するとともに、これまで本校の得ている情報を基に労働機関や就労支援機関等と連携を図りながら進路決定に結びつけていく必要がある。</p>
達成目標	高等部卒業学年生徒の進路希望達成率80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・年度当初に実施している「進路希望調査」の前に、高等部卒業学年生徒やその保護者と進路に関する懇談会を設け、一人一人の進路希望状況をよりの確に把握する。</li><li>・「令和4年度進路指導マニュアル」の見直しに向けて進路指導部内で検討する機会を設けるとともに、特に進路指導年間計画を中心に各学部、学科において周知する。</li><li>・進路指導年間計画を基に、各学部、学科の実態に応じた就業体験や進路懇話会などを計画的に実施する。</li><li>・「進路等相談希望票」を進路希望調査配布時に併せて配布し、幼児児童生徒や保護者からの進路や福祉等に関する疑問や不安がある場合に対応する機会を設ける。</li><li>・進学希望生徒には、進学希望先の概要、受検までの流れ、受検方法等に関する情報提供を行うとともに、オープンキャンパス等の参加を促す。</li></ul>

令和4年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 3 —

重点項目	その他	
重点課題	年齢に応じた寄宿舎の生活指導の在り方について	
現 状	<p>寄宿舎生は、中学部から高等部専攻科までの異年齢の8名が入舎している。これまでの余暇活動では、小学部の児童がいたこともあり、季節にちなんだ活動を計画し、児童生徒が楽しみ、満足できる活動内容を工夫して行ってきた。しかし、入舎している生徒の年齢が高まったため、将来の生き方を考えるような情報や今後の社会生活を営むために役立つ情報を提供することも必要であると考えた。</p> <p>そこで、余暇活動に社会性を育む公共の話題を提供したり、寮生ミーティングのあり方を見直したり等の新たな取組を進め、自立と社会性を育む要素を取り入れ、充実を図ることを目指す。</p>	
達成目標	内閣府政府広報室発行の「明日への声」やNHK「バリバラ」等の音声を1か月1回以上目途に放送で流し、情報提供を行う。	日常生活を助ける「便利グッズ」や毎日新聞社発行の「点字毎日」の紹介や活用を学期に2回以上行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識として身に付けられる内容を選択する。</li> <li>・学習時間終了後の時間に計画的に実施する。</li> <li>・聴いた内容について生徒に4段階で評価してもらい感想を書いてもらうなどの振り返り用紙を作成し、生徒の変容を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生ミーティングで「便利グッズ」を紹介し、日々の生活でも積極的に利用する機会を増やす。</li> <li>・「点字毎日」を生徒に貸し出したり寮生ミーティングで記事を読んで聞かせたりする。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)